



(Japan Skipjack tuna Society)

平成 2 5 年 度

## 通 常 総 会 議 案 書

\*と き 平成 25 年 6 月 22 日(土)10 時 00 分～

\*ところ 高知大学メディアホール

高知市曙町 2 - 5 - 1

TEL : 088-844-8643

日本カツオ学会事務局

〒780-8073

高知市朝倉本町 2 丁目 1 7-4 7 高知大学国際・地域連携センター内

TEL : 088-844-8555      FAX : 088-844-8556

E-mail : [katsuo@kochi-u.ac.jp](mailto:katsuo@kochi-u.ac.jp)      [http : www.katsuo-gakkai.jp](http://www.katsuo-gakkai.jp)



(Japan Skipjack tuna Society)

## 通 常 総 会 次 第

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶

3. 議 長 選 出

4. 議事録署名人指名

5. 議 事

第 1 号議案 平成 24 年度(平成 24 年 1 月～3 月を含む)事業報告  
について

第 2 号議案 平成 24 年度(平成 24 年 1 月～3 月を含む)収支決算  
について (監査報告)

第 3 号議案 役員人事及び企画委員・編集委員の選任について

第 4 号議案 平成 25 年度事業計画(案)について

第 5 号議案 平成 25 年度収支予算(案)について

第 6 号議案 その他

6. 閉 会



(Japan Skipjack tuna Society)

第1号議案

## 平成24年度事業報告

### 1. 概況報告

日本カツオ学会は、カツオに興味や関心を持つ、あらゆる人々が集い、各種の情報交換をはじめ、相互の交流と連携をもとに、調査研究を継続して行う機会、協働の図れる場づくりを目指して、産学官からなる発起人のもとに平成23年1月8日 高知県黒潮町で誕生した。

本学会は、会費収入を唯一の財源としていることから、その後、徐々に発起人や関係自治体などを中心として、会員確保の活動を開始するとともに、カツオに関係する企業群にも本学会への参画について声掛けを強力に進めて行った。

加えて、昨秋に沖縄県宮古島市で開催した「2012 カツオフォーラム in 宮古島市」の開催会場においても、会員の勧誘を行うなど幅広く会員獲得に向けての動きを展開してきた。この結果、現状では(平成25年3月末)、個人会員102名、団体会員36団体、賛助会員3団体の会員登録を得るまでになっている。

「会報誌」の発行については、多くの方々の要望を受けて6月・1月の2回の発行となった。

本年度の中心事業として位置付けた「2012 カツオフォーラム in 宮古島市」については、沖縄県・宮古島市・伊良部漁協他の多大な御尽力を得て、平成24年10月6日(土)に宮古島市伊良部中央公民館を会場として、下記のプログラムで参加者約160名の参加を得て盛会裏に開催できた。

記

#### ①. 基調講演

「沖縄のカツオの価値を問う」 沖縄大学名誉教授 上田不二夫 氏

#### ②. パネルディスカッション

テーマ「離島におけるカツオ漁業のこれから」

～持続可能な展開に向けた地理的不利性の克服と人材確保～

コーディネーター：日本カツオ学会 副会長 受田 浩之 氏

パネリスト：沖縄大学客員教授 長崎 節夫 氏

：カツオ船「第5喜翁丸」船長 漢那 一浩 氏

：本部漁協組合長 平安山良修 氏

：株式会社F B Tプランニング代表取締役 久塚 智明 氏

：株式会社かわまん商店代表取締役 川満 清隆 氏



(Japan Skipjack tuna Society)

③. 特別講演

テーマ 「カツオ万歳」～カツオ漁業を舞台にしたふるさと物語～

前宮古島市教育長 川上 哲也 氏

④. 宮古島大会宣言

宮古島市副市長 長濱 政治 氏

⑤. 大会旗継承宣言

宮古島市から日南市へ

フォーラムの後、佐良浜漁港で「カツオばんざい交流会」が開かれ、カツオの切り身を投げる佐良浜地区の風習「オオバンマイ」などが行われ、フォーラム関係者・地域住民の交流が広まった。

2. カツオセミナー

当学会では、これまでにフォーラム等を開催し、自治体や現場の声を反映する機会を設けてきました。一方で、学会設立から1年が経過し、学術関係者やカツオに関係する企業の方々からも発表を希望する声があがってきております。このような声を受け、5月12日(土)、高知大学朝倉キャンパス メディアの森・メディアホールを会場に、平成24年度通常総会に引き続き、「2012 カツオセミナー in 高知」を下記プログラム内容で開催し、研究者や水産関係者、食品産業従事者等、約80名が参加を得て、盛会裏に開催できた。

記

①. 基調講演

コーディネーター：日本カツオ学会 副会長 受田 浩之 氏  
東京海洋大学大学院 教授 和田 俊 氏

「食品としてのカツオ節の未来を考える」

②. 一般講演

コーディネーター：日本カツオ学会 副会長 久塚 智明 氏  
高知大学農学部 准教授 島村 智子 氏

「高知県黒潮町の日戻りカツオに関する調査  
ー抗疲労物質含量とその効果についてー」

高知新聞 記者 福田 仁 氏

「カツオ不漁の背景」

愛媛大学南予水産研究センター 教授 松原 孝博 氏

「カツオ一本釣りまき餌カタクチイワシの養殖に向けた取り組み」

③. 企業講演

コーディネーター：日本カツオ学会 副会長 受田 浩之 氏



(Japan Skipjack tuna Society)

マルトモ株式会社	土居 幹治 氏
「かび付けで変化するかつお節のだし感」	
ヤマキ株式会社 かつお節・だし研究所	稲田 明宏 氏
「かつお節に含まれるイノシン酸について」	
味の素株式会社	杉本 信幸 氏
「太平洋沿岸カツオ標識放流調査－日本近海への来遊特性の解明－」	

### 3. 役員会

#### (1) 第1回役員会

平成25年3月28日(木)午後5時から6時10分まで高知市にて若林会長、受田副会長、濱田会計役、吉用事務局長、黒潮町(尾崎運営委員)、増崎監事の参加と他の役員については、委任状により会議を成立させ、開催した。

協議事項としては、

- ① 役員人事について
- ② 平成24年度事業報告について
- ③ 平成24年度収支決算報告(見込み)について
- ④ 平成25年度事業計画(案)について
- ⑤ 平成25年度収支予算(案)について

以上を協議し、通常総会へ諮ることとした。

### 4. 会報誌の発行

「会報誌」の発行は、本学会を広く広報するとともに会員確保の一助とするために、当初より計画して検討してきた。

3回の会報誌発行の予定であったが、6月と2月の2回の発行となった。

なお、それぞれの会報誌の概要は次のとおりである。

#### (1) 日本カツオ学会会報(第2巻・第1号)の概要・・・6月発行

- ① 日本カツオ学会の活動方針
- ② 2012 カツオセミナーin高知
- ③ 日本カツオ学会役員の変動
- ④ 日本カツオ学会通常総会
- ⑤ 【特別寄稿】「カツオ産業の振興と宮古島-カツオ資源と地域活性化-」  
沖縄大学名誉教授 上田 不二男 氏
- ⑥ 次回開催地 宮古島市



(Japan Skipjack tuna Society)

⑦【新着情報・カツオの広場】

- 味の素株式会社さんからの情報提供
- 日本カツオ学会のホームページ、開設します！！

(2) 日本カツオ学会会報 (第2巻・第2号) の概要・・・2月発行

- ① 日本カツオ学会の活動方針
- ② 2012 カツオフォーラム in 宮古島
- ③ 【特別寄稿】「カツオばんざい」の精神で、地域を元気に！

日本カツオ学会 会長：若林 良和 氏

④「2012 カツオフォーラム in 宮古島市 写真集」

- ⑤ 尖閣諸島周辺海域におけるカツオ漁業
- ⑥ 次回開催地 宮崎県日南市

⑦新着情報・カツオの広場】

- 宮古島市で「カツオの日」制定
- 「おおばんまい」

カツオに関する情報提供を！！

6. 2012 カツオフォーラム in 宮古島

次ページ【2011 カツオフォーラム in 宮古島】並びに【宮古島大会宣言】  
のとおり

7. 共催・後援等

「第2回枕崎カツオマイスター検定」を計画している枕崎カツオマイスター  
検定推進協議会(会長：枕崎市長)から要請があり昨年に引き続き、共催した。

認定試験：平成24年11月3日・4日



(Japan Skipjack tuna Society)

## 宮古島大会宣言

### 1 カツオ資源の保全に向けたさらなる協働を図ること

カツオは海洋を広く回遊することから、一地域だけでは資源を保全していくことはできません。そのため、カツオ資源に関わる南方海域から三陸沖合海域までの地域、さらには赤道周辺の諸外国など、広範囲の地域がつながって、資源管理を考える必要があります。ここ宮古島市でも漁業者によるカツオ資源の減少が叫ばれていることから、今後もカツオに関わる全ての者が協働し、資源の保全について継続的に議論と情報の交換・共有を行っていきます。

### 2 カツオ漁業における人材の確保と育成を図ること

カツオ漁業が将来にわたって継続されていくためには、それを営む漁業者がいなければなりません。そのため、漁業後継者及び担い手を地域内にとどまらず、海外を含めた多角的な展開に取り組むことで、その確保に努めていく必要があります。宮古島市の漁業者も戦前・戦後を通じて南方カツオ漁業に携わった経緯もあることから、カツオを通じた国際交流を促進することで、これからカツオ漁業を支えていく若年層の育成に対する基盤づくりを推進していきます。

### 3 カツオが持つ多様性の活用を図ること

カツオは昔から日本人に愛されてきた食材であります。刺身だけでなくタタキ、鰹節、燻製など様々な形態で食されてきた歴史と文化を有しており、まさにカツオが持つ可能性は無限であると言えます。宮古島市においても、カツオ漁業のみにとどまらず、鰹節製造業も存在することから、総合的にカツオ業界を育成していく仕掛けが必要であり、今回のフォーラムを契機として、市民レベルでカツオの良さを見直す取組にも着手しました。これからもカツオにまつわる歴史・文化を広く伝え再評価していくとともに、新たな加工方法・商品開発、観光業を含めた他産業との連携、すなわち6次産業化を念頭にカツオが持つ多様性の活用を図ることで、その価値を高めていきます。

平成 24 年 10 月 6 日

カツオフォーラム in 宮古島

## 【収入の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 会費	623,000	846,000	223,000	
個人会員	273,000	306,000	33,000	102件 × 3,000円 = 306,000円
団体会員	290,000	360,000	70,000	36件 × 10,000円 = 360,000円
賛助会員	60,000	180,000	120,000	6件 × 30,000円 = 180,000円
2. 雑入	1,000	2,040	1,040	
雑入	1,000	2,040	1,040	5/12総会での雑入(2,000円) + 預金利子(40円)
3. 繰越金	189,612	189,612	0	
前年度繰越金	189,612	189,612	0	前年度繰越し金 189,612円
合計	813,612	1,037,652	224,040	

## 【支出の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 事業費	630,690	529,770	100,920	
総会費	20,000	0	20,000	
カツオセミナー費	100,000	85,080	14,920	5/12:学会総会での講師旅費 85,080円
カツオシンポジウム費	300,000	300,000	0	カツオフォーラムin宮古島実行委員会補助金 300,000円
広報費	60,690	60,690	0	学会HP年間ランニング費用 60,690円
会報費	150,000	84,000	66,000	会報紙用封筒印刷費 84,000円
2. 事務局費	160,000	81,659	78,341	
事務経費	160,000	81,659	78,341	※振込手数料(80円+525+735円+735円+525円) 2,600円 記事掲載料(高知新聞:1,600円+宮崎日日新聞:5,250円) 6,850円 会報発行に伴う通信運搬費(8/6:11,182円+2/4:4,547円) 15,729円 切手代(7月:3,240円+2月:2,400円+3月:2,600円) 8,240円 会計監査旅費 48,240円
3. 予備費	23,310	0	23,310	
予備費	23,310	0	23,310	
合計	814,000	611,429	202,571	

歳入歳出決算

【収入】

【支出】

1,037,652 円

-

611,429 円

=

426,223 円

を翌年度へ繰り越す。



# 監 査 報 告 書

平成24年度日本カツオ学会の会計監査の結果を下記のとおり報告いたします。

1 監査年月日 平成25年 5月 23日

## 2 監査結果

平成24年度 日本カツオ学会の収支決算について監査したところ、会計諸帳簿・証票書類等、いずれも正確にかつ適正に処理され不都合な点を発見せず、正当なものと認めたので報告します。

平成 25年 5月 23日

監事 東京都練馬区関町北3-33-3-102

黒田 輝彦 

監事 大阪市城東区新喜多1-2-7-1007

増崎 勝敏 



(Japan Skipjack tuna Society)

第3号議案

## 役員人事について

日本カツオ学会役員(任期: H25.4.1~H27.3.31)

役職名	氏名	所属	
会長	若林 良和	愛媛大学	留任
副会長	受田 浩之	高知大学 国際・地域連携センター	留任
副会長	久塚 智明	(株)FBT プランニング	留任
副会長	大西 勝也	高知県黒潮町	留任
会計役	浜田 仁司	高知県黒潮町	留任
事務局長	吉用 武史	高知大学 国際・地域連携センター	留任
運営委員	二平 章	茨城大学地域総合研究所	留任
運営委員	片岡 千賀之	元・長崎大学 水産学部	留任
運営委員	不破 茂	鹿児島大学 水産学部	留任
運営委員	野呂 忠秀	鹿児島大学	留任
運営委員	上田 不二夫	沖縄大学	留任
運営委員	石原 義剛	海の博物館	留任
運営委員	大海原 宏	元・東京水産大学	留任
運営委員	川島 秀一	東北大学 災害科学国際研究所	留任
運営委員	竹内 正一	元・東京水産大学	留任
運営委員	和田 俊	東京海洋大学	留任
運営委員	尾崎 憲二	高知県黒潮町	留任
運営委員	神園 征	鹿児島県枕崎市 市長	留任
運営委員	末永 芳美	東京海洋大学	新任
運営委員	小倉 未基	独立行政法人水産総合研究センター	新任



(Japan Skipjack tuna Society)

運営委員	山下 秀幸	独立行政法人水産総合研究センター	新任
運営委員	増崎 勝敏	大阪府立旭高等学校	新任 (前監事)
運営委員	古屋 矢太郎	(株)久原本家	新任
運営委員	森岡 克司	高知大学 農学部	新任
運営委員	島村 智子	高知大学 農学部	新任
監事	黒田 輝彦	黒田プロダクション	留任
監事	磯脇 堂三	土佐清水市	新任

日本カツオ学会定款より抜粋

### 第3章 役員

(種類及び定数)

第12条 本会に次の役員を置く。

会長	1名
副会長	3名
会計役	1名
事務局長	1名
運営委員	若干名
監事	2名

(選任等)

第13条 役員は総会において選任する。

- 2 監事については、会員以外の者から選任することができる。
- 3 監事は、他の役員を兼ねることができない。

(職務)

第14条 省略

(任期)

第15条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。



(Japan Skipjack tuna Society)

## 企画委員・編集委員の選任について

日本カツオ学会 企画委員(任期:H25.4.1~H27.3.31)

委 員		役職名	所 属	
委員長	受田 浩之	副会長	高知大学 国際・地域連携センター	留任
委員	大西 勝也	副会長	高知県黒潮町	留任
委員	野呂 忠秀	運営委員	鹿児島大学	留任
委員	上田 不二夫	運営委員	沖縄大学	留任
委員	石原 義剛	運営委員	海の博物館	留任
委員	片岡 千賀之	運営委員	元・長崎大学 水産学部	留任
委員	竹内 正一	運営委員	元・東京水産大学	留任
委員	和田 俊	運営委員	東京海洋大学	留任
委員	神園 征	運営委員	鹿児島県枕崎市 市長	留任
委員	末永 芳美	運営委員	東京海洋大学	新任
委員	小倉 未基	運営委員	独立行政法人水産総合研究センター	新任
委員	島村 智子	運営委員	高知大学	新任

日本カツオ学会定款より抜粋

### 第9章 企画委員会

(設置等)

第 40 条 役員会のもとに企画委員会を置く。企画委員会は企画委員長及び企画委員で構成し、企画委員長がこれを代表する。

(選任等)

第 41 条 企画委員は若干名とし、役員から役員会の議を経て選任する。委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 企画委員長は、選任された企画委員の互選による。

(職務)

第 42 条 企画委員会は、本会の実施する事業の企画を主管する。



(Japan Skipjack tuna Society)

日本カツオ学会 編集委員(任期:H25.4.1~H27.3.31)

委 員		役職名	所 属	
委員長	川島 秀一	運営委員	リアス・アーク美術館	留任
委員	若林 良和	会長	愛媛大学	留任
委員	久塚 智明	副会長	(株)FBT プランニング	新任
委員	二平 章	運営委員	茨城大学地域総合研究所	留任
委員	不破 茂	運営委員	鹿児島大学	留任
委員	大海原 宏	運営委員	元・東京水産大学	留任
委員	尾崎 憲二	運営委員	高知県黒潮町	留任
委員	山下 秀幸	運営委員	独立行政法人水産総合研究センター	新任
委員	増崎 勝敏	運営委員	大阪府立旭高等学校	新任
委員	森岡 克司	運営委員	高知大学	新任

日本カツオ学会定款より抜粋

## 第10章 編集委員会

(設置等)

第 43 条 役員会のもとに編集委員会を置く。編集委員会は編集委員長及び編集委員で構成する。

(選任等)

第 44 条 編集委員は、役員から役員会の議を経て選任する。委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 編集委員長は、選任された編集委員の互選による。

(職務)

第 45 条 編集委員会は、本会の発行する会誌その他の出版物の編集業務を主管する。



## 平成25年度事業計画(案)

日本カツオ学会は、平成23年1月8日の発足以来、3年目を迎え、カツオフォーラム、カツオセミナーを開催し、カツオ学会関係者並びにカツオ産業関係者の皆様が本学会活動を通じて、カツオの資源・経済・社会・文化など多様な価値を問い直すことを念頭に、次のとおり事業展開を行う。

### 1. 「2013カツオセミナー in 高知」の開催

学術関係者や企業人からの情報発信の場としてのカツオセミナーを開催

- (1) 日時：平成25年6月22日(土) 13時から(通常総会に引き続き)
- (2) 場所：高知大学朝倉キャンパス(メディアの森メディアホール)
- (3) 概要
  - ① 開会の挨拶・・・日本カツオ学会会長、高知県水産振興部 東部長
  - ② 基調講演・・・山下秀幸 開発調査専門役(独立行政法人水産総合研究センター)
  - ③ 一般講演・・・口頭発表(15分発表・5分質疑)を6演題
  - ⑤ 交流会の実施・・・学内学生会館2階ホールで立食パーティー

### 2. 「2013カツオフォーラム in 日南市」の開催

自治体や現場の声を反映する場としてのカツオフォーラムを開催

- (1) 日時：平成25年12月7日(土)
- (2) 場所：日南市内(決まり次第お知らせします。)
- (3) 概要：「2012カツオフォーラム in 宮古島」を参考としながら、日南市独自の演出を検討・協議願う

### 3. 「2013カツオ節サミット」の開催

カツオ学会の活動を広く皆様にお知らせし、情報発信の場として開催する。

目的：①鰹節に関わる正確な知識や情報を多方面で幅広く周知・普及し、鰹節との上手な付き合い方を考え、日本人の食生活における鰹節の重要性を提唱していく。

②鰹節に関する様々な価値を、地域間の交流を前提に認識し共有する。そして、可能なレベルから連携しながら、鰹節の良さ・魅力を理解し、鰹節の消費につないでいく。

③K1(いろんな意味で、鰹節ナンバーワン)を誇る三大産地が結集して、一致団結して、鰹節の良さをPRし、全体の底上げを図る。

形態：産地間連携をもとにした産消交流イベント



(Japan skipjack tuna Society)

名称：K1（ケイワン）交流サミット＜鯉節産消交流サミット＞（仮称）  
主体：山川産地協議会を中心とする協議会  
共催：日本カツオ学会、コープ・生活協同組合  
方法：生産地 山川をはじめ、枕崎、焼津の日本鯉節三大産地  
消費地 コープ（東京、大阪、名古屋、福岡）  
時期：2013年11月23日（土・祝、鯉節の日）か、その前後  
場所：年1回とし、生産地と消費地の交互開催

#### 4. 『「カツオがつなぐ絆」～黒潮ネットワークによる広域的地域間共助』

平成25年度国土交通省「広域的地域間共助」推進のためのモデル事業に、上記テーマを申請、採択を受けた。そのコンセプトは、黒潮に面する海で生活をする者どうしが、カツオ漁業の生産・加工を基軸に、新たな視点で「地域活性化」と「防災」の分野において連携・結集するものである。本事業の支援機関である㈱プラネット・フォーまちづくり推進機構と連携して、事業を実施する。

#### 5. 会員の確保

地域・領域・学問・立場など様々なレベルを超えて、つむぎ合うために、全国のカツオに興味や関心を持つ多くの人に参加を呼び掛け、学会の発展を目指す。

また、年度の切り替え時期には、最も多い個人会員の人事異動などを考慮して、関係機関においては、会員の維持・確保に向けた対応を積極的に行っていく。

#### 6. 恒常的事業

##### (1) 日本カツオ学会ホームページの充実

平成23年9月に立ち上げた本学会のホームページの充実を図るとともに、会員相互の情報交換の場として活用、展開していく。

##### (2) 日本カツオ学会会報誌の発行

本学会活動を広く広報し周知を図るために、引き続き会報誌を発行する。発行回数は3回とする。

##### (3) 役員会及び企画委員会と編集委員会の開催

必要に応じて、臨時役員会や両委員会の開催を行う。

特に、企画委員会と編集委員会にあっては、メール会議等を活用して各委員に周知を図りながら、意見集約を行い、より多くの意見が結果に反映できるように対応していく。

## 第5号議案

## 平成25年度 日本カツオ学会収支予算書（案）

## 収入の部

単位:円

費 目	前年予算額	予算額	増減額	説 明
1. 会 費	623,000	816,000	193,000	
個人会員	273,000	306,000	33,000	102人 × 3,000円 = 306,000円
団体会員	290,000	360,000	70,000	36団体 × 10,000円 = 360,000円
賛助会員	60,000	150,000	90,000	5団体 × 30,000円 = 150,000円
2. 雑 入	1,388	8,501,777	8,500,389	
国土交通省	0	8,500,000	8,500,000	平成25年度「広域的地域間共助推進事業」
雑 入	1,388	1,777	389	預金、金利他
3. 繰 越 金	189,612	426,223	236,611	
前年度繰越金	189,612	426,223	236,611	
合 計	814,000	9,744,000	8,930,000	

## 支出の部

単位:円

費 目	前年予算額	予算額	増減額	説 明
1. 事業費	630,690	9,130,690	8,500,000	
総会費	20,000	20,000	0	平成25年6月22日開催
カツオセミナー費	100,000	100,000	0	平成25年6月22日開催
カツオシンポジウム費	300,000	300,000	0	日南市実行委員会 300,000円
広報費	60,690	60,690	0	HP維持費 60,690円
会報費	150,000	150,000	0	会報誌発行(50,000円×3回)
広域的地域間共助推進事業	0	8,500,000	8,500,000	平成25年度「広域的地域間共助推進事業」
2. 事務局経費	160,000	110,000	△ 50,000	
事務経費	160,000	110,000	△ 50,000	通信運搬費 20,000円 監事旅費(2人分) 90,000円 土佐清水～黒潮町(1泊2日)10,000円 東京～黒潮町(1泊2日)80,000円
3. 予備費	23,310	503,310	480,000	
予備費	23,310	503,310	480,000	
合 計	814,000	9,744,000	8,930,000	